

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 パーチェ吉祥院		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 25日		～ 2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年 2月25日		～ 2026年 3月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢と発達状況に応じてグループを編成し、一人ひとりが個別または集団の中でそれぞれに応じた活動や取り組みをおこなう安心して向かいながら、手ごたえや楽しさを感じることができるようになっている。	発達に合わせたあそび(取り組みや活動の内容)を日常的に職員同士でお意見交換とはなしあいをおこない、子どもの姿や状況に応じて展開や提供の仕方を工夫している。療育の後には反省会を実施し振り返りを行うことで次の実践にいかすようにしている。	自園の実践だけでなく他の事業所で行われている実践にも学び、その内容と幅を広げていくことをしていくようにしている。
2	保護者・家族への支援や相談、学習等に力を入れている。どの支援においても子どもの姿を発達的な視点からとらえ、どのような場合でも子どもの姿には必ず背景と理由があることを共有しながら、子育てをしていけるようにしている。月1回の親グループで発達の学習や子育ての悩みを交流。要望に応じて個別面談の実施を行っている。	日常的に保護者の悩みや、子育ての中でのしんどさなどもしっかりとつかんでおくことで親グループや学習会の内容にいかすようにしている。保護者同士が話しやすい環境(話し合いの部屋)の用意をすることや親グループや学習会の進行は職員が行い、こちらの伝えたい内容が正確に理解してもらえるようにすることや、誰もがが話しやすい条件を作るようにしている。	保護者支援や学びあいのテーマ・内容は日々複雑多様化していることもあるので、支援にあたる職員が日常的に研修や学びをするようにしている。
3	法人内に同じ児童発達支援の事業所が複数(3か園)あることで、保護者支援や療育内容、実践等の交流と学びあいを互いに行うことで支援内容や実践の質の向上につなげている。	月一回の管理者や役員会議をはじめ、職員会議の中で互いの事業所の実践内容や状況を報告しあい幅広い職員の中で議論できるようにしている。	職員研修としての物理的な時間をさらに確保するため、その方法やあり方を管理者と役員者で論議、検討を重ねている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安定した事業運営を継続していくこと。	子どもの体調不良や保護者の就労の都合等で、欠席されることがある。現在の報酬制度では運営が非常に不安定。	職員体制の充実、報酬制度についての自治体や国に対する働きかけを継続していく。
2	地域のなかでの子育て支援や関係機関とのつながりと連携を進めているところではあるが、さらに拡大していく必要がある。	2025年からの新しい事業所であることから、まだつながりが持っていないところもある。そこへも視野を広げて取り組みを進めていく。	積極的かつ意識的に地域や関係機関とのつながりや連携を行うようにしていく。
3			